

日本人の忘れもの 知恵会議

日本人の忘れもの 知恵会議
平成29年4月17日(月)
京都新聞文化ホール
主催=京都新聞 企画協力=株式会社 日商社
「忘」=筆 森清範 清水寺真主

●京都から次世代に伝えるメッセージについて考える「日本人の忘れもの 知恵会議」主催「京都新聞」が4月17日、京都新聞文化ホールで開催された。文庫移転に伴い、政策立案拠点「地域文化創生本部」が京都に発足する中、日常の市民生活を充実させるものにするために「文化」をどのように活用すればいいのか、「京都の弱点」について考察するともに、その具体的取り組みの方法について4人の識者が話し合った。コーディネーターは、京都新聞総合研究所所長の内田孝が務めた。

●中川典子氏

銘木商「千本銘木商會事務局長」

「酢屋」の屋号を持つ千本銘木商會は、幕末に坂本龍馬をかまくまいた材木屋としても知られます。床の間の床柱や欄間、天井用いられる木目の美しい木があつらえるのが銘木屋で、幕末の頃から発展した世界で日本にしかない職種です。北山杉は京都府の木として愛されていますが、生活スタイルの変化により住宅から和室が姿を消すとともに、その生産量も激減しているのが現状です。

立命館大経営学部の学生と未来の床の間を考えた際、床の間を見たとなない字が多く、取柄「スペース」と思われてることに驚きました。市内には町家を活用した店舗も数多くありますが、床の間やどんな樹種が室内を彩っているかをゆつくりと観になったことがあるでしょうか。大学のまち・京都には多くの学生が暮らしていますが、彼らに茶室や数寄屋、町家といった木造、伝統建築の良さ、木のある暮らしは十分に伝わっていません。京都が世界に誇れる木の文化を知る、木育の必要性を痛感しています。

「暮らしを文化から考える」

京都の弱点

「パネルディスカッション」
「強みが多いのが弱点だという指摘もありました。弱点を強みに変えるために大切なことは何だと思われまか。」

中川

●京都が置かれていた京都には日本中の銘木が集まり、屋久杉を最も多く使っていたのも京都だといわれています。樹齢千年以上の屋久杉は内部を溶かしてまで成長します。レノンコンのような穴のある板の木目を生かしてお寺の蓮華間に仕上げるなど、京都が得意とする「見立て」と取り合わせで、頂いた木の命を最大限に生かしてました。京都では当たり前のことですが、海外ではよく驚かれます。京都に暮らすことが第一歩かもしれませんが、京都で暮らすことが第一歩かもしれません。小川●日本庭園は床の間やの上座から最も良く見えるように設計されたものです。和室が減り椅子での生活が増えれば、庭園の見え方や見方も変わります。明治時代、琵琶湖疎水の完成は庭園に大きな影響を与えました。「植込」の屋号で知られる7代目小川治兵衛が作庭した醍醐菴(京都市左京区)は、流れる水と芝生を用いた明るく開放的な空間で、近代庭園の先駆けといわれています。時代やライフスタイルが変わっても、喜ぶ人の姿を思い描いてくれば、折々における可能性は広がると思っています。

佐村

●まち・ひと・しごと創生本部が内閣官房に設置されたのは2014年です。長期ビジョンでは、2035年に始まった人口減少に歯止めをかけ、50年後の2060年に1億人程度の人口を維持することを目標にしています。国も地方自治体も当面5年間の具体的な総合戦略を策定しました。私は京都に来るたび、ゆつたりとした時間の流れに効率が悪くてもいい気がされます。東京に比べるとまだ慌ただしい生活に戻り、心のゆとりを忘れてしまおうのですが、異なる時間の流れを知っている、持っていることはとても大切なことだと思っています。



佐村知子氏 鎌田浩毅氏 小川勝準氏 中川典子氏

●小川勝準氏
自然を生み出しているように思われがちな作庭ですが、山を崩した土や、掘り起こした木や石を使っているのです。しかし自然は作為的で不自然なもので、しかし自然への敬意や憧れを込めて生み出された庭園は、長い時間をかけて自然の一部になり、私たち人間より長く生き続けます。スピードが求められる現代において時間を要することは弱点

中川氏 自らの強みを

きちんと自覚することが第一歩

小川氏 感性を駆使し

数値を超えた趣、風情を生み出す

鎌田氏 長い尺度で考えると

物事の本質が見えてくる

佐村氏 日本各地の特色のある文化を

京都でコーディネートする

ですが、この時間軸の長さこそが庭園の魅力でもあります。弱点も特色と捉えれば、強みに変えることができるのではないのでしょうか。時間を忘れてしまいませんか。

桜の花びらが舞い散る景色を見て、誰かた花見をした日のことを思い出した経験はありませんか。景色はそれを見たときの出来事や感情とともに心の中にしま込まれ、再びその景色を見たとき思い出となってよみがえります。京都には庭園が多いので、一度見たら次は別の庭園と思われながらも、一度見たら、再訪してこそ気が付くこともあります。街路樹や公園の樹木も含めて長い目で見守っていたらどうかと思います。

●鎌田浩毅氏

火山学者 京都大学大学院 人間・環境学研究科教授

京都大の定年を4年後に控え、小さな町家を手に入れました。近世フランス文化・芸術の発展に寄与したのは、貴族が自宅で開いたサロンでした。彼らが芸術家や知識人を招いたように、私もいろいろの人に来ていただき楽しく語り合っています。木造の町家は一度見せしやな印象を受けますが、壁には丈夫な松材が使われ、床柱も見事です。薄暗い部



勝つことは東京に任せ、京都は歴史や文化を深めて知的生産力を高めるべきです。欧米や中国がまねのできない「知能の高い仕事」を創出することが、グローバル化する世界の中で京都が、ひいては日本が生き残る方策だと考えます。

●佐村知子氏

元京都府副知事/前内閣官房まち・ひと・しごと創生本部地方再生部部長

3年連続で落ちましたが、京都市が世界人気観光都市ランキングで2年連続1位になり、国際コンベンション都市としても上位にあるなど、「京都」ブランドは世界的にも抜群の知名度を誇ります。文化芸術資源をはじめ、伝統・先端・コンテンツ産業、またお茶や京野菜、多様な地域性も、誰もがうらやまど多くの地域資源を持っていますが、まだ大きな持続可能な構想の下でそれらを結び付け生かす切れてはいないと思います。

京都府の合計特殊出生率は1.26で、全都道府県で下から2番目は、人口1割を学生が占める京都市です。大学進学に多くの若者が転入しますが一方で就職や結婚・出産を機に転出する人も多く、定住につながっていません。もったいないことです。場場製作所創業者の故塩田雅夫氏がかつて、「世界を相手にするなら東京も京都も同じ」と話されていたのが印象に残っています。今年は大政奉還から150年。東京に対抗意識を持つのではなく、京都は文化の力で世界に発信し、日本の各地をリードしていくべきでしょう。

●鎌田浩毅氏

1959年、東京生まれ。79年、東京理科大学 田邊産業経済学系 学長、同大学 田邊研究所 所長として火山と出合い、とりこになる。米国カスケード火山帯調査隊 研究員、歴史・地質・地質学 研究者、現在、2017年、理学博士。著書に「地質学」(佐村知子 著)など。

●中川典子氏

京都生まれ。幕末に坂本龍馬をかまくまいた創業300年近くの材木屋。静態に生まれ、銘木加工技術の特長を生かし、町家の再生や床の間づくり、新しモノタラの発明、家具・建築製作に、木のぬくもりの息を伝えていく。Do YOU KYOTO ネットワーク大使。

自然災害を完全に防ぐことはできません。昔、薫品に開かれた生活を送るうち、いざというとき避難できるような身体感覚を取り戻すことも必要だと思ってしまう。1869(明治)の年、東京遷都以来、日本の経済や政治は東京が中心で、文科省の予算も多くが東京大にいきます。京都大は、東京大が手を付けていないニッチな分野の研究で成果を上げようとしています。世界に向けて

●小川勝準氏

日常生活の中で感覚の重要性を感じることはあります。

●佐村知子氏

「日常の中で感覚の重要性を感じることはあります。」

一日常生活の中で感覚の重要性を感じることはあります。小川●私がこの仕事に携わり始めた高校生の頃は、現場の仕事は感覚が大事だと常に言われていました。今は事前にコミュニケーションで描いた図面通りにメジャーで測りながら施工するよう現場もありますが、感覚は図面に取られません。木も石も、自然物に同じ形状は一つとしてありません。人と自然双方の喜びをおもひばかり、現場が丸となった感性を駆使したとき、数値を超えた趣や風情となり、庭園の個性が生まれます。現場が生き生きしていません。

中川●銘木は料理屋さんのまな板や、和菓子屋さんや日本酒の蔵元の道具などにも使われます。適材適所を見ているのが銘木師の五感です。目で見て手で触ったりするのはもちろん、製材するときは聞き耳を立て、匂いを嗅ぐことで、どういう性質の木か「木味」を判断します。感覚は経験を積み重ね、身に付きます。感性は経験を積み重ね、身に付きます。感性は経験を積み重ね、身に付きます。

日本人の忘れもの 知恵会議 支援事業 地域活性化プロジェクト案

募集

「日本人の忘れもの 知恵会議」では、忘れられつつある地域文化を、いかに日々の暮らしに取り入れることができるかを模索しています。これからの社会にこそ必要とされる「日本人の忘れもの」について再発見し、考え、未来に残していくための地域活動案を募集します。

- ◆対象 京都市、滋賀県内で活動する団体・グループ・企業など
- ◆応募期間 2017年5月22日(月)～6月30日(金) 必着
- ◆応募方法 申請書(日本人の忘れもの特設サイトからダウンロード)に必要事項を添えて、郵送(〒604-8567 住所不問 京都新聞COM「日本人の忘れもの知恵会議」係)またはメール(wasuremono@mb.kyoto-np.co.jp)でご応募ください。

- ※活動に掛かる経費を負担します。(支給上限額あり)
- ※プロジェクト採択は一事業とします。
- ※行政団体など、他の助成を受けている事業、および企業・団体の支援を受けている活動、個人の宣伝・営利目的の催し、有料催事は対象外とします。
- ※2018年3月末までに実施が可能であること。
- ※京都市内、滋賀県内の活動であること。
- ※地域に根差した活動で、次年度以降も継続できる可能性があること。

お問い合わせ 日本人の忘れもの知恵会議事務局 Tel.075-241-6170(平日午前10時～午後5時)

日本人の忘れもの 知恵会議 フォーラム

私たちは「日本人の忘れもの 知恵会議」に企画しています。

- アサヒビール株式会社 京滋統括支社
- 石清水八幡宮
- 裏千家 今日庵
- N T T西日本 京都支店
- 大阪ガス株式会社
- オムロン株式会社
- 株式会社 オンリー
- 株式会社 京都銀行
- 京都中央信用金庫
- 株式会社 京都東急ホテル
- 株式会社 京都西川
- 株式会社 京都ホテル
- 株式会社 京都ホテ
- 清水寺
- キリンビール株式会社 京滋支社
- 株式会社 きんでん 京都支店
- 月桂冠株式会社
- サントリー酒類株式会社 京都支店
- 株式会社 GSユアサ
- ジーク株式会社
- 株式会社 ジェイアール西日本伊勢丹
- 株式会社 進々堂
- 成基コミュニティグループ
- 総本山 醍醐寺
- 株式会社 大丸松坂屋百貨店
- 株式会社 高島屋京都店
- タキイ種苗株式会社
- 武田病院グループ
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 株式会社 トーセ
- T O W A 株式会社
- 西日本旅客鉄道株式会社
- ニチコン株式会社
- 日本写真印刷株式会社
- 日本たばこ産業株式会社
- 東山浄苑 東本願寺
- 株式会社 日立製作所 京都支店
- 株式会社 福寿園
- 株式会社 フクナガ
- 富士ゼロックス 京都株式会社
- 佛教大学
- 京懐石 美濃吉
- 彌榮自動車株式会社
- 学校法人 立命館
- ローム株式会社
- 株式会社 ワコールホールディングス